東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2009年10月9日

万物はその完全な作用によってアッラーの力を証明する。

ムスリムの皆様。万有の主アッラーは、クルアーンにおいて何度も人間を、見える世界を、つまり命あるものとないもの、大地と大空、山と石、果物と野菜、駱駝や鳥などのそれぞれ動物たちを、教訓と共に見ること、そしてそのお方のお力を考えることへと招いています。そうした内容を持つ節の一つにおいて「かれらは頭上の天を見ないのか。われが如何にそれを創造し、如何にそれを飾ったか。」（第５０章第６節）と仰せられておられます。

親愛なるムスリムの皆様。注意深く見た場合、全てにおいて全能である主のご命令やご用をおおせつかっていることの結果として、天空には驚くべき平穏さや静けさが観られます。しかし、空にある、驚異的でかつ非常な高速で動いている地球や星など、そして惑星や隕石などがもし勝手に放棄されているのであれば、私達の耳を破壊してしまうほどの音や騒音を出していたことでしょう。

さらに万物はばらばらになって混乱していたことでしょう。３－５機のブルドーザーが共に働いている時に出している音、あるいは恐慌をきたしてあちこち走りまわっている15-20頭の象や牛が出している声を考えてください。しかし地球より 1400 倍もの大きさを持つものもある、光の速さで動いている惑星の音を聴くことはできますか。そう、これが全能である我々の主の力と偉大さなのです。

兄弟の皆様。それらと同様にもう一つの大事なことは、これほどの星や惑星などが何らかの英知によって動いているということです。これほどの惑星が無駄に創造されたということは絶対にありえません。それらの全ては存在の中で最も尊いものである人間のためです。つまり、人が主の力や偉大さを理解し、そしてそのお方に仕え崇拝し続けるためです。

ムスリムの皆様。科学的や技術的に発展した社会の正確さや秩序さは評価すべきものでしょう。それにもかかわらず我々は物事が時々うまく進んでないということを見聞きします。

しかし我らの熱や光の源である太陽が一度であれその機能を実施しなかったというようなことを目にされたことはありますか？また月が一夜でもその任務を果たさなかったことをご覧になったことはありますか。もし地球がその執道から数百キロでも離れたら、何が起きるか考えたことはありますか？

注目すべきもう一つの教訓を含んだ情景とは、天がこれほどにも美しく飾られているということです。青空の時も空が曇った時も美しく感じられます。飛行機の中から見た雲の光景の美しさに魅了されなかった方がおられるでしょうか。

夜には灯明のように我々に微笑みかける星によって天が飾られたことも、完全で美しい特徴を持っている芸術家であられる主のしるしです。その星や月の決められた場所と形そして輝かしさを否定している人がいるでしょうか。それらの傑作は多くの詩人にインスピレーションを与えていることも周知のとおりです。もし我々の信仰にも示唆を与えているのであれば、それらの印が伝えたいメッセージを受け取ったことになります。

これほどの印や指示は当然、皆に開かれ、皆の目の前に存在しています。しかし伝えられているメッセージは、熟考する者、考察する者そして把握でいる者のみが理解するのです。我々はそのお力の前にひれ伏して祈ります。我々の主よ、あなたはいかに尊く偉大なお方でしょうか。